

水域	調査項目	調査地点
江戸川・ 旧江戸川	船上調査 (魚類調査)	St.G1 江戸川 (京成江戸川鉄橋) St.G2 江戸川 (江戸川大橋) St.G3 旧江戸川 (浦安橋下流) St.G4 旧江戸川 (舞浜大橋下流)
	歩行調査 (魚類・底生動物調査)	St.T1 江戸川 (善兵衛樋管・水路) St.T2 旧江戸川 (江戸川3-11地先) St.T3 旧江戸川 (南葛西五丁目公園先のワンド)
葛西沖 (東なぎさ)	船上調査 (魚類調査)	St.G5 葛西人工海浜・外海
	歩行調査 (魚類・底生動物調査)	St.T4 葛西人工海浜・東なぎさ 北側 St.T5 葛西人工海浜・東なぎさ 南側

【調査結果概要】

・底生動物

7月：コウロエンカワヒバリガイ、マガキ、ヒメタニシ、カワゴカイ属、テナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ、ヤマトオサガニ、タカノケフサイソガニ、タイコウチ等

9月：カワザンショウガイ、マガキ、カワゴカイ属、シラタエビ、クロベンケイガニ等

・魚類

7月：サッパ、コイ、ツチフキ、ボラ、コクチバス、クロダイ、スズキ、マハゼ、アシシロハゼ、ビリンゴ、ヌマチチブ、トサカギンボ等

9月：ヒイラギ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、ハクレン、ニゴイ、クロダイ、スズキ、イダテンギンボ、ビリンゴ、エドハゼ、ヒモハゼ等

【調査の様子】



生物調査（干潟以外）のレポート③

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
株式会社 日本海洋生物 研究所	多摩川河口	2018年8月10日	コアマモ

【対象生物】

コアマモ

【調査の方法】

(1) 調査時期

平成30年8月10日(水) 9:00 調査開始、11:00 調査終了（大潮干潮時）

(2) 調査方法

図1に調査地点図を示した。大潮の干潮時間帯に徒歩でコアマモの生育場所を広範囲に探査した。生育が認められた地点(写真1)において、目視観察によりコアマモの生育状況を概観し、生育範囲を大きく2区画に区分した。各区画は、長方形に囲んで長辺と短辺を計測し、植被度を記録した(写真2)。また、区画の中央付近に20cm×20cmの方形枠を設置し、枠内の株数を計数して株密度を算出した(写真3)。草高は、各区画から無作為に選んだ10株について、底質から最長の葉体先端部分までを計測して求めた。



図1 調査地点



写真1 生育状況



写真2 生育面積計測



写真3 株密度計測

【調査結果の概要】

(1) コアマモの生育状況

調査結果を表 1 に、コアマモの生育状況を図 2、写真 4～7 に示した。

コアマモは 2 区画合計約 4 m²の面積で生育していた。また、近傍に約 1 m²の面積で新たな小群落(新区画)が確認された。生育株密度は区画①が 2,725 株/m²、区画②および新区画は水深があり葉体基部が判別できなかつたため計測しなかつたが他の区画と同程度に密生しており、昨年と同様、過去に東京湾の盤洲干潟や富津干潟、金沢八景(野鳥公園)以南の内湾域などの干潟で観測された株密度¹⁾と比較して十分に繁茂した状態であった。草高は 142～320 mm の範囲であり、昨年までと比較して小型であった。花枝は確認できなかつた。

表 1 調査結果

調査日	2018年8月10日		
調査位置(GPS)	N35° 32' 37.4'' ~ E139° 45' 47.1''	N35° 32' 37.6'' ~ E139° 45' 47.2''	N35° 32' 37.6'' ~ E139° 45' 48.0''
	区画①	区画②	新区画
区画サイズ(cm)	90×230	90×190	100×130
植被率	90～100%(極密生)	70～90%(密生)	70～90%(密生)
株密度(株/m ²)	2725	未計数	未計数
平均草高(mm)	204	228	242
最大草高(mm)	255	320	305
最小草高(mm)	142	170	215

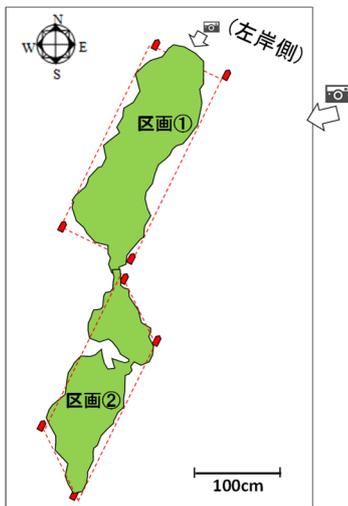


図 2 コアマモ生育状況の模式図

(图中、白抜の矢印は写真 4～5 の撮影方向を示す) 写真 6 生育状況(近景) 写真 7 生育状況(新区画)



写真 4 生育状況(全景)

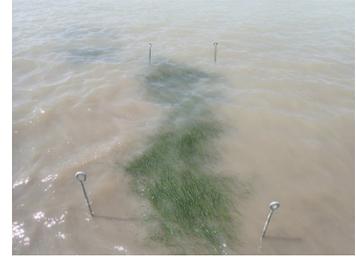


写真 5 生育状況(区画①)



(2) 生育状況の変化

平成 27 年 8 月に大田漁業協同組合の組合員から寄せられた情報に基づき、多摩川河口において、東京湾奥部では希少なコアマモの自然分布が



写真 8 写真 H28. 8. 3 の全景



写真 9 H29. 8. 9 の全景

局地的に確認されたことから、生育状況を継続的に調査している。平成 28 年度および平成 29 年度に撮影されたコアマモ生育状況を写真 8~9 に示した。コアマモは平成 28 年度には約 5 m²、平成 29 年度には約 16 m² の面積で高密度に生育していた。今回の調査では、生育面積が縮小するとともに中心位置に変化が認められたものの、群落は維持されていた。

(参考文献)

- 1) 輪島毅ほか：東京湾藻場分布調査ーアマモ場調査まとめー，(株)日本海洋生物研究所 2004 年年報, 31-37

生物調査（干潟以外）のレポート④

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
川崎市環境局環境総合研究所環境リスク調査課	東扇島東公園人工海浜	2018年7月12日 2018年8月10日	水生生物

1 調査実施日

平成30年7月12日(木) 9:30~12:00
8月10日(金) 9:30~11:30

2 調査地点

東扇島東公園人工海浜(川崎市川崎区東扇島 58-1)

図1に示した地点1~地点3において調査を実施しました。



図1 調査地点

3 調査生物

東扇島東公園人工海浜に生息する水生生物

4 調査方法

地点1~3付近の生息している生物を目視で確認し、写真撮影を行いました。

5 調査結果

東扇島東公園人工海浜では、32種類の生物を確認しました。確認した生物の詳細は表及び図2(1)~(3)のとおりです。

表 確認生物一覧

	門	綱	生物名	7月12日	8月10日	
1	刺胞動物	鉢虫	ミズクラゲ	○	○	
2			アカクラゲ	○		
3		花虫	タテジマイソギンチャク	○	○	
4	軟体動物	腹足	フレリトゲアメフラシ	○	○	
5			アカニシ		○	
6			イボニシ	○		
7			シマメノウフネガイ		○	
8			アラムシロガイ	○	○	
9			二枚貝	アサリ	○	○
10				ホンビノスガイ	○	
11				マテガイ	○	
12		ミドリイガイ		○	○	
13		ムラサキイガイ		○	○	
14		多板	ヒザラガイ	○	○	
15		環形動物	多毛	Cirriformia 属の一種	○	
16				ケヤリムシ科の一種		○
17				多毛綱の一種	○	○
18	節足動物	軟甲	ユビナガホンヤドカリ	○	○	
19			ヒライソガニ		○	
20			ケフサイソガニ	○	○	
21			十脚目の一種	○		
22			ヨコエビの一種	○	○	
23			トゲワレカラ	○		
24			フナムシ	○	○	
25	触手動物	コケムシ	ホンダワラコケムシ		○	
26	棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ		○	
27	脊索動物	ホヤ	シロボヤ	○	○	
28			硬骨魚	ナベカ		○
29		ハゼ科の一種			○	
30	緑色植物	アオサ藻	アオサ属の一種	○	○	
31	紅色植物	紅藻	オゴノリ	○	○	
32	維管束植物	トクサ	アマモ	○	○	



ミズクラゲ



アカクラゲ



タテジマイソギンチャク



フレリトゲアメフラシ



アカニシとシマメノウフネガイ



イボニシ



アラムシロガイ



アサリ



ホンビノスガイ



マテガイ



ミドリイガイ



ムラサキイガイ



ヒザラガイ



Cirriformia 属の一種



ケヤリムシ科の一種

図 2 (1) 確認された主な生物



多毛綱の一種



ユビナガホンヤドカリ



ヒライソガニ



ケフサイソガニ



十脚目の一種



ヨコエビの一種



トゲワレカラ



フナムシ



ホンダワラコケムシ



モミジガイ



シロボヤ



ナベカ



ハゼ科の一種



アオサ属の一種



オゴノリ

図 2 (2) 確認された主な生物



アマモ

図 2 (3) 確認された主な生物

生物調査（干潟以外）のレポート⑤

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
ダイダン株式会社 技術研究所	柳瀬川	2018年8月1日	水生生物、昆虫

【対象生物】

柳瀬川に生息する水生生物・昆虫

【採取方法】

Dフレームネットを用いた定性採取を行った。

採取した生物について同定と出現数のカウントを行い、ASPT法（平均スコア法）により水質良好性の評価を行った。

※ASPT法（平均スコア法）：生物による河川環境の評価方法。採取した水生生物を科レベルまで分類し、それぞれの科に設定されたスコアの合計を出現した科数で除したものを平均スコア（ASPT）とし、水質の指標とする。

環境省のマニュアルでは平均スコアにより河川水質を4階級に分類している。

平均スコアの範囲	河川水質の良好性
7.5以上	とても良好
6.0以上 7.5未満	良好
5.0以上 6.0未満	やや良好
5.0未満	良好とはいえない

【調査時の様子】

1	調査個所の状況 ①柳瀬川（富士見橋）	
---	-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

<p>2 調査個所の状況 ②柳瀬川（清柳橋付近）</p>	
<p>3 調査時の様子 （D フレームネットによる採取）</p>	
<p>4 調査時の様子 （採取した生物の分別）</p>	

【調査結果概要】

①柳瀬川（富士見橋）で確認された生物（一部）

1	<p>科名：サンカクアタマウズムシ科</p> <p>和名：アメリカツノウズムシ</p> <p>学名：<i>Girardia dorocephala</i></p>	
2	<p>科名：イシビル科</p> <p>和名：シマイシビル</p> <p>学名：<i>Erpobdella lineata</i></p>	
3	<p>科名：マミズヨコエビ科</p> <p>和名：フロリダマミズヨコエビ</p> <p>学名：<i>Crangonyx floridanus</i></p>	

4	<p>科名：ミズムシ科</p> <p>和名：ミズムシ</p> <p>学名：<i>Asellus hilgendorfi</i></p>	
5	<p>科名：ハゼ科</p> <p>和名：ウキゴリ</p> <p>学名：<i>Gymnogobius urotaenia</i></p>	

②柳瀬川（清柳橋付近）で確認された生物（一部）

1	<p>科名：ヒゲナガトビケラ科</p> <p>和名：アオヒゲナガトビケラ</p> <p>学名：<i>Mystacides sp.</i></p>	
2	<p>アオヒゲナガトビケラの筒巢 (ケース) に利用されたプラスチック片</p>	
3	<p>科名：シマトビケラ科</p> <p>和名：ウルマーシマトビケラ</p> <p>学名：<i>Hydropsyche orientalis</i></p>	

<p>4 科名：コカゲロウ科</p> <p>和名：コカゲロウ属の1種</p> <p>学名：<i>Baetis sp.</i></p>	
<p>5 科名：タニガワカゲロウ科</p> <p>和名：シロタニガワカゲロウ</p> <p>学名：<i>Ecdyonurus yoshidae</i></p>	
<p>6 科名：マダラカゲロウ科</p> <p>和名：エラブタマダラカゲロウ</p> <p>学名：<i>Torleya japonica</i></p>	

【調査地点①:柳瀬川(富士見橋) 生物分析結果】

No.	門名	綱名	目名	科名	種和名	学名	体長	出現数	ASPTスコア
1	脊索動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	60mm	1	-
2		両生綱	無尾目	アカガエル科	ウシガエル(幼生)	<i>Lithobates catesbeiana</i>	70mm	1	-
3	扁形動物門	新卵綱	ウズムシ目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>	3mm	85	-
4	軟体動物門	腹足綱	基眼目	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus chinensis</i>	1mm	1	-
5	環形動物門	ヒル綱		イシビル科	シマイシビル	<i>Erpobdella lineata</i>	10mm	9	2
6	節足動物門	昆虫綱	カゲロウ目	コカゲロウ科	シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i>	4mm	3	6
7				タニガワカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>	3mm	1	9
8			ハエ目	ユスリカ科	ユスリカ(腹鰓なし)	<i>Chironomidae</i>	5mm	42	6
9		甲殻綱	端脚目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>	4mm	5	-
10	エビ綱	等脚目	ミズムシ科	ミズムシ	<i>Asellus hilgendorfi</i>	4mm	2	2	
11		エビ目	ヌマエビ科	ヌマエビ科の1種	<i>Atyidae</i>	5mm	2	-	
12	貝虫綱	カイミジンコ目		カイミジンコ目の1種	<i>Podocopida</i>	2mm	1	-	
計	5門	9綱	11目	12科 (スコアに関係: 5科)	12種			153	25
					平均スコア (ASPT): スコア合計/出現した科の数		25 ÷ 5 =		5.00
							河川水質の良好性: やや良好		

【調査地点②:柳瀬川(清柳橋付近) 生物分析結果】

No.	門名	綱名	目名	科名	種和名	学名	体長	出現数	スコア		
1	扁形動物門	新卵綱	ウズムシ目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>	10mm	6	-		
2	環形動物門	ヒル綱		イシビル科	シマイシビル	<i>Erpobdella lineata</i>	30mm	2	2		
3		貧毛綱		ヒメミミズ科	ヒメミミズ	<i>Enchytraeus sp.</i>	10mm	1	4		
4	節足動物門	昆虫綱	カゲロウ目	コカゲロウ科	シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i>	3mm	1	6		
5					サホコカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>	3mm	2			
6					コカゲロウ属の1種	<i>Baetis sp.</i>	5mm	4			
7				タニガワカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>	10mm	13	9		
8				マダラカゲロウ科	エラブタマダラカゲロウ	<i>Torleya japonica</i>	2mm	2	8		
9					アカマダラカゲロウ属の1種	<i>Uracanthella sp.</i>	2mm	1			
10				トビケラ目	ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ	<i>Mystacides sp.</i>	5mm	22	8	
11					ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ	<i>Hydroptila sp.</i>	3mm	1	4	
12					ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	35mm	8	9	
13			シマトビケラ科		ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	10mm	1	7		
14					ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopshyche infascia</i>	8mm	1			
15			ハエ目	ユスリカ科	ユスリカ(腹鰓なし)	<i>Chironomidae</i>	5mm	26	6		
16			コウチュウ目	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ科の1種	<i>Elmidae</i>	2mm	1	8		
17			クモ型綱	ダニ目	オヨギダニ科	オヨギダニの1種	<i>Hygrobates sp.</i>	0.8mm	1	-	
18					ナガレダニ	オニナガレダニ	<i>Sperchonopsis sp.</i>	0.5mm	1	-	
19			エビ綱	エビ目	ヌマエビ科	ヌマエビ科の1種	<i>Atyidae</i>	5mm	2	-	
計			3門	5綱	7目	15科 (スコアに関係:11科)	19種			96	71
							平均スコア (ASPT): スコア合計/出現した科数			71 ÷ 11 =	6.45
										河川水質の良好性: 良好	

【総括】

- ASPT 法（水生生物スコア法）を用いて採取した生物について分析した結果、調査地点①（富士見橋）の水質良好性は「やや良好（ASPT=5.0）」、調査地点②（清柳橋付近）の水質良好性は「良好（ASPT=6.45）」となり、同日に行った水質調査の結果と同様の傾向を示した。
- 調査地点①（富士見橋）では外来種のアメリカツノウズムシ、フロリダマミズヨコエビが観察され、特にアメリカツノウズムシは数多く確認できた。水生昆虫はユスリカ類が多くみられた。
- 調査地点②（清柳橋付近）では、調査地点①と比較し水生昆虫の種数・個体数が多く、特にアオヒゲナガトビケラを中心としたトビケラ類が多く観察された。一部のトビケラでは巣材に細かいプラスチック片を用いているものが確認できた。

【参考文献】

- (1)刈田敏三(2011)『身近な水生生物 観察ガイド』 文一総合出版.
- (2)刈田敏三(2010)『水生生物ハンドブック』 文一総合出版.
- (3)環境省(2017)『水生生物による水質評価法マニュアル-日本版平均スコア法-』

以上

生物調査（干潟以外）のレポート⑥

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
東京都環境局自然環境部水環境課	城南大橋、お台場海浜公園、葛西人工渚、東京都内湾	2018年5月1日、10日、7月12日、8月27日、9月18日、10月9日	魚類

生物調査の結果

東京都環境局では、稚魚調査として干潟部、成魚調査として東京都内湾部において水生生物調査を実施している。稚魚調査は小型地引網、成魚調査は小型底引網を用いて調査をしている。

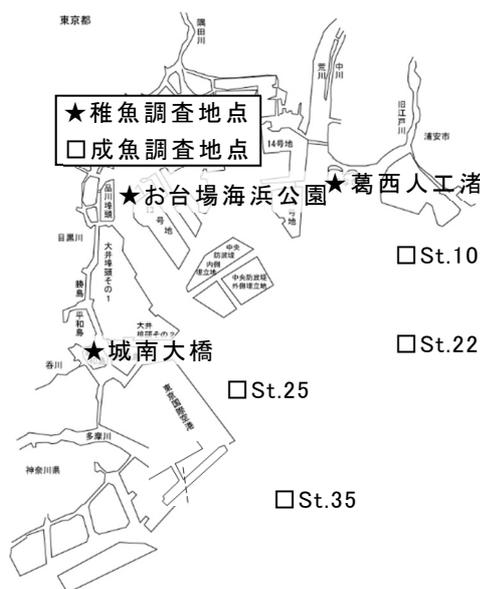
実施日程及び地点は、次のとおり。

【調査日及び調査地点】

稚魚：5月1日、7月12日、8月27日、10月9日

成魚：5月10日、9月18日

調査地点	稚魚	成魚
内湾部	St.22	○
	St.25	○
	St.35	○
浅海部	St.10（江戸川河口・高洲）	○
	葛西人工渚	○
干潟部	お台場海浜公園	○
	城南大橋	○
地点数	3	4



【調査結果概要】

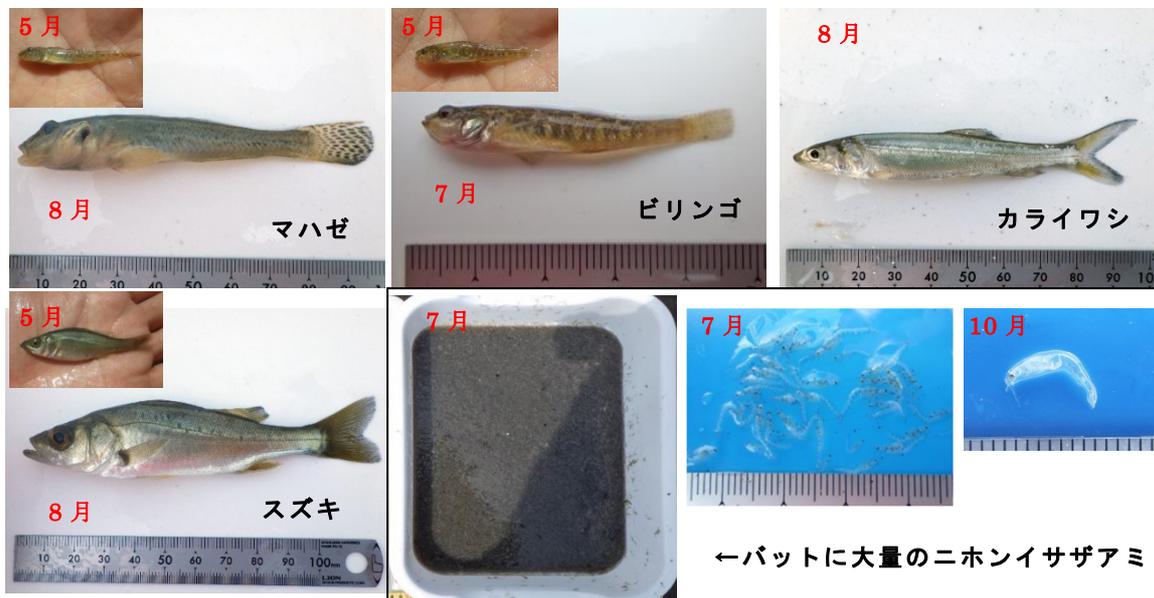
1. 稚魚調査：代表種は次のとおり。

	5月			7月			8月			10月		
	お台場	城南大橋	葛西人工渚									
魚類												
アシシロハゼ	+											
イシガレイ	r	+	+									
ウキゴリ属	m	+										
ウグイ属										r		
エドハゼ		+	c			c						r
カタクチイワシ			r						r			
カライワシ							r		r			
ギマ							r					
キナヌ				+								
クサフグ									r			
コショウダイ									r		r	
コノシロ					r	c						
サツバ								r				
シマイサキ									r			
シロギス							c	m	r	r	r	
スズキ	+	m	c	+	+		r					
チチブ	+											
トウゴロウイワシ								r				
ナベカ属					r				r			
ヒイラギ								m	r			c
ヒメハゼ		r	r	+						+	+	
ピリンゴ	m	c	c	r		c						
ボラ	c	c	c	r								
マゴチ							r	c	r		r	r
マハゼ	m	c		+	+	c	r	r				
マルタ						+						
メナダ属						r	r		r			
ヨウジウオ							r					
魚類以外												
アキアミ												c
アサリ	r				r						+	r
アラムシロガイ					r						r	
エビジャコ属	c	m	c	+	+			c	+	r	+	
カザミ												r
シオフキガイ								c			r	
シラエビ						+			+			
タイワンカザミ									r			
タカノケフサイソガニ									r			
ニホンイサザアミ	+				m	G						G
ホトギスガイ								+		r		
ユビナガスジエビ												r
ユビナガホンヤドカリ		r		+			r			r		

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

マハゼやスズキ、サツパのほか、希少種であるビリンゴ、カライワシを確認した。また、葛西人工渚を中心に、魚類の重要な餌となるニホンイサザアミが大量に出現した。

○調査で確認された主な種類



2. 成魚調査：採取魚種は次のとおり。

	5月				9月			
	St.10	St.22	St.25	St.35	St.10	St.22	St.25	St.35
下層DO[mg/L]	7.2	5.1	5.5	6.2	1.6	0.9	0.3	1.4
魚種								
サツパ						r*		
スジハゼ				r				
タチウオ			r					
テンジクダイ			r					
ハタタテスメリ	c	c	+	c				
マコガレイ	r							
マハゼ	r							
メイトガレイ		r						
アカガイ			r		+			
イソギンチャク目							r	
イッカクモガニ	c							
ウスカラシオツガイ					c			
エビジャコ		r						
ケブカエンコウガニ		m	c	m				
サルエビ		r						
サルボウ					+			
シノフハネエラスピオ						+	r	m
シマメノウフネガイ					c			
シヤコ				c				r
ジンドウイカ		r						
スナヒトデ		+	c					
タイラギ				r				
トリガイ				r				
ハナムシロ								r
ヒメガザミ	+							
ホンビノスガイ	+		r	r				+
マルバガニ		r	+					

*サツパは、網の上げ下ろし時に入網したと考えられる。

c:20-100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

5月には、全地点で魚類を確認した。全地点でハタタテスメリが出現した。魚類以外では、ケブカエンコウガニやスナヒトデ等が出現した。

9月は、すべての地点で底層の溶存酸素量が 2.0 mg/L 未満の貧酸素状態であり、魚類も貝も死殻が多く、生きた生物はほとんど見られなかった。St.25 では、5月に続きホンビノスガイが出現した。



主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
東京都環境局自然 環境部水環境課	東京都内湾	2018年8月1日、 2日、7日	植物プランクトン、 動物プランクトン

東京都内湾赤潮調査の概要

東京都環境局では、毎月の測定計画による水質測定調査時に動植物プランクトン上位10種の同定・計数のほか、夏季期間中、延べ17日間の赤潮調査（上位5種）を実施し、毎週の赤潮発現の推移を見ている。

【調査時期】

平成30年8月1日、2日（測定計画16条調査）及び7日（赤潮調査）9時から13時

【調査結果概要】

台風12号の影響で7月28日、29日に合計67mmの降雨があった。調査日であった8月1日は、台風は通過したものの、非常に暑い日であった。

一方、8月7日は、前々日まで猛暑日が続いたものの、当日は涼しく、台風13号の影響で不安定な天気となった。うねりが強いため、St.35は表面採水のみ実施し、St.22,8は欠測とした。

8月1日及び2日の内湾調査

赤潮であった地点は9地点のうち4地点（St.5、St.6、St.11、St.23）であった。複数の地点で、*Skeletonema costatum*, *Skeletonema sp.*, *Thalassiosira binata*, *Thalassiosira sp.*, *Thalassiosiraceae*, *Chaetoceros subgen.Hyalochaete sp.*が多くみられ、細胞数で上位を占めた。4地点（St.5、St.6、St.11、St.22）では下層溶存酸素量が2.0mg/L未満であり、特にSt.6では0.5mg/L以下となり、下層水からは微硫化水素臭がした。

8月1日、2日の植物プランクトン定量結果

平成30年度8月

調査地点		St.5	St.6	St.8	St.11	St.22	St.23	St.25	St.35	広26			
採集年月日		8月1日	8月1日	8月1日	8月1日	8月1日	8月2日	8月2日	8月2日	8月2日			
採水時刻		9:30	10:30	11:02	10:00	11:40	9:20	9:52	11:00	11:43			
植物プランクトン													
環境省 コードNo.	統一 コードNo.	門	綱	種名	細胞数(単位: ×10 ³ 細胞/m ³)								
2169	0092	クリプト植物	クリプト藻	Cryptomonadaceae	1,100	1,010	78	1,100	648	432	888	696	132
2199	0160	渦鞭毛植物	渦鞭毛藻	Heterocapsa sp.	360	288	30	1,430	384		143	408	72
1101	0429	黄色植物	珪藻	<i>Skeletonema costatum</i>	10,800	1,300	126	7,560	504	4,180		240	
1186	申請済			<i>Skeletonema sp.</i>	2,950	528	42	600		14,400			
8167	0298			<i>Thalassiosira binata</i>	1,580	26,400		11,500		4,750			
8167	0304			<i>Thalassiosira sp.</i>	10,100	15,900	105	3,720	288	1,540	672		408
8299	0305			Thalassiosiraceae	4,100	5,380	57	4,970	274	11,200	109	528	97
8299	0313			<i>Cerataulina dentata</i>					544		492	512	27
1141	0330			<i>Chaetoceros lorenzianum</i>									136
1160	0328			<i>Chaetoceros subgen.Hyalochaete sp.</i>	20,700	29,300	732	28,300	17,600	25,100	2,540	2,740	23
1169	0368			<i>Cylindrotheca closterium</i>	384	1,130	33	456	696	528	936	1,080	
1170	0373			<i>Nitzschia sp.</i>									28
1399	0991		ワウ小藻	<i>Heterosigma akashiwo</i>		232							
1399	1068	シロムシ植物	シロムシ藻	Euglenophyceae			27		285	696	144	108	
1399	1082	緑色植物	ブドウ藻	Prasinophyceae							105	205	33
2188	4621	その他の鞭毛植物	-	other Micro-flagellates		382	39	312	672	264	180	408	35
1300	4623	その他	-	others	1,430	1,130	63	1,030	960	1,100	396	601	70
合計細胞数					53,736	82,748	1,332	60,978	22,855	64,190	6,605	7,526	1,061

プランクトンの顕微鏡観察



8月7日の赤潮調査

St.6、お台場で赤潮と判定された。東京都では、1回の赤潮調査につき、およそ2地点でプランクトン定量を実施している。8月7日は中央防波堤内側の St.6 およびお台場で定量調査を行った結果、細胞数からは *Chaetoceros* spp. および Cryptomonadaceae が優占種であった。また、動物プランクトン *Mesodinium rubrum*、Oligotrichina が見られた。

下層水の溶存酸素量は、St.6、11、25の地点で2.0 mg/L未満であった。

8月10日の植物・動物プランクトン定量結果

平成30年度8月						
調査地点		お台場		St.6		
採取年月日		8/7		8/7		
採水の有無		有		有		
植物プランクトン						
環境省 コードNo.	統一 コードNo.	門	綱	種名	細胞数(単位:×10 ⁶ 細胞数/m ³)	
	92	クリブ植物	クリブ藻	Cryptomonadaceae	4,610	5,470
	159.2	渦鞭毛植物	渦鞭毛藻	<i>Heterocapsa rotundata</i>	1,150	1,300
	211	ハプト植物	ハプト藻	Haptophyceae (無殻)		1,920
	295	黄色植物	珪藻	<i>Skeletonema costatum</i>	1,200	
	305			Thalassiosiraceae	2,160	2,160
	335			<i>Chaetoceros</i> spp.	19,000	14,800
	4623			other phytoplankton	5,570	4,660
合計細胞数					33,690	30,310
特記事項						
	366	黄色植物	珪藻	<i>Pleurosigma</i> sp.		30
動物プランクトン						
環境省 コードNo.	統一 コードNo.	門	綱	種名	個体数(単位:×10 ⁶ 個体数/m ³)	
	1411	原生動物	繊毛虫	<i>Mesodinium rubrum</i>	8.40	4.00
	1627			<i>Helicostomella longa</i>	0.40	
	1658			Oligotrichida	18.0	18.8
	1672			Ciliata		0.80
	2050	袋形動物	輪虫	<i>Synchaeta</i> sp.		0.80
	2812	軟体動物	二枚貝	D-shaped larva of Bivalvia	0.40	
	3128	節足動物	甲殻	Nauplius of Copepoda	1.20	0.80
	4624			other zooplankton	0.40	1.20
合計個体数					28.80	26.40

生物調査（干潟以外）のレポート⑦

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
東京湾シギチドリ一斉調査グループ	多摩川河口、六郷干潟、森ヶ崎の鼻など 21 地点	2018 年 9 月 9 日	シギ・チドリ類

【対象生物】

湿地で確認されたシギ・チドリ類（チドリ目チドリ科・ミヤコドリ科・セイタカシギ科・シギ科・レンカク科・タマシギ科・ミフウズラ科・ツバメチドリ科）

【調査方法】

双眼鏡・望遠鏡を使って目で見て、シギチドリ類を数えます。多い時はカウンターを使います。

調査日、調査時間、調査場所、調査参加者、鳥の種、個体数を記録します。

コアタイムの個体数：一斉調査日のコアタイム（干潮前後 30 分の約 1 時間）の記録。

一斉調査日の最大数個体数：コアタイム外の時間も記録できるだけカウントし、各種の最大個体数を記録。

【調査結果概要】

コアタイムでは、21 種 475 個体を記録。多かった種は、ミユビシギ 118 羽、シロチドリ 66 羽、メダイチドリ 57 羽。

全体合計では、28 種 771 個体を記録。多かった種は、ミユビシギ 176 羽、トウネン 121 羽、シロチドリ 84 羽。

詳細は別表参照。

【調査の様子】



幕張 C 浜 調査風景 (撮影：茂木大樹)



幕張 C 浜 トウネン (撮影：柴田絵里)



幕張 C 浜 ミユビシギ (撮影：柴田絵里)



茜浜 調査風景 (撮影：柴田絵里)



葛西海浜公園西なぎさ トウネン (撮影：中村忠昌)



森ヶ崎の鼻 調査地 (撮影：守屋年史)



森ヶ崎の鼻 キアシシギ (撮影：守屋年史)



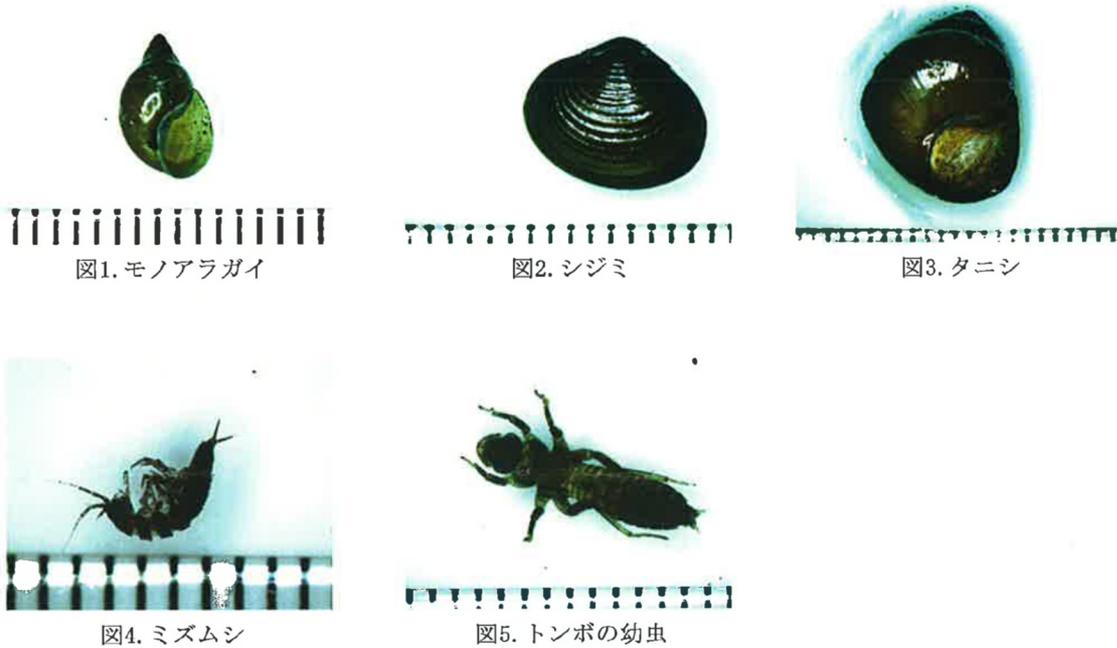
森ヶ崎の鼻 イソシギ (撮影：守屋年史)

生物調査（干潟以外）のレポート⑧

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
富士電機機器制御株式会社 吹上事業所	北足立第一排水路	2018年8月23日	底生生物など

【底生生物】

確認された生物を図1～図5に示す。（写真中の目盛は1mm）



【まとめ】

調査地点においては、小型から中型の淡水魚も観察された。水深がやや深く（20～60cm）、底質は砂泥や泥のところが多かった。

水生昆虫としては、ミズムシ、トンボの幼虫が確認され、巻貝・二枚貝として、モノアラガイ、タニシ、シジミが確認された。

生物調査（干潟以外）のレポート⑨

主催団体名	調査地点・海域	調査時期	調査内容
横浜・八景島シーパ ラダイス	横浜市海の公園湾 内	2018年10月10日	水生生物

【対象生物】

アマモ場に生息する水生生物

【調査結果概要】

海の公園の調査で以下の生物が確認されました。

各個体数とサイズ・最小値～最大値は以下の通りです。

- ・アミメハギ 235尾 12 mm～67 mm
- ・オクヨウジ 8尾 56 mm～80 mm
- ・クサフグ 1尾 170 mm
- ・シマイサキ 1尾 51 mm
- ・スジハゼ 3尾 40 mm～58 mm
- ・ニクハゼ 11尾 35 mm～44 mm
- ・ニジギンポ 4尾 47 mm～60 mm
- ・ヒメイカ 2尾 18 mm～21 mm
- ・ヒメハゼ 3尾 21 mm～36 mm
- ・アカメバル 47尾 63 mm～94 mm
- ・ヨウジウオ 11尾 22 mm～203 mm
- ・スズキ 1尾 385 mm
- ・カワハギ 82尾 70 mm～104 mm
- ・アイゴ 5尾 18 mm～72 mm
- ・キュウセン 1尾 48 mm
- ・キジハタ 1尾 65 mm

合計 16種 416尾

以上

10. 環境啓発活動等のイベント開催実績

東京湾の海域及び流域河川の水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントは、表 10-1 のとおり、21 件の環境啓発活動等のイベントが開催されました。(募集時に対象期間とした 7 月～9 月外のものも含まれます。)

表 10-1 環境啓発活動の開催実績 (実施日順)

報告書 番号	開催場所	実施日	活動内容等	主催
①	横浜市高島水際線公園	5月5日、 7月7日、 9月1日、 10月6日、 11月13日	水際ゴミ拾い・生き物観察会・ハマエビ杯・ハマハゼ杯他	高島水際線公園愛護会
②	君津製鐵所本館コミュニケーションホール	6月8日	環境講演会	新日鐵住金(株) 君津製鐵所
③	野田市商工会議所(花の会)、野田市商店街連合会、野田市清水台小学校、野田市役所環境保全課、野田・流山地区在籍のキッコーマングループ全社	6月25日	鉢植え配布	キッコーマン株式会社 環境部
④	株式会社日本触媒川崎製造所(千鳥工場)	6月27日	2018年度 環境大会	株式会社日本触媒川崎製造所(千鳥工場)
⑤	株式会社日本触媒川崎製造所(千鳥工場)	6月27日	2018年度 環境大会	株式会社日本触媒川崎製造所(浮島工場)
⑥	君津製鐵所沿いの国道16号及び近傍道路の歩道約14km	6月28日	構外道路清掃	新日鐵住金(株) 君津製鐵所

※	葛西海浜公園西なぎさ	7月14日	カニ生息一斉調査 干潟調査	生き生き東京湾 研究会
⑦	葛西海浜公園西なぎさ	7月16日 ～ 8月26日	海水浴体験	認定 NPO 法人ふるさと東京を考える実行委員会
⑧	葛西海浜公園西なぎさ	7月16日 7月22日 7月29日 8月5日 8月11日 8月12日 8月19日 8月26日	里海まつり	認定 NPO 法人ふるさと東京を考える実行委員会
⑨	葛西海浜公園／西なぎさ	7月21日 8月18日 9月8日 10月20日 10月28日	西なぎさ発：東京 里海エイド	DEXTE-K
⑩	浦安市浦安海岸日の出	7月29日	三番瀬ミニクリーンアップ	浦安三番瀬を大切にする会
⑪	横浜・柴漁港、幕張	7月29日 10月8日 11月10日	アマモ種子選別会、 エコメッセ 2018 in ちば（会の活動の 情報展示）等	東京湾をよくするために行動する会
⑫	川崎港及び川崎市環境総合研究所	8月3日	夏休み環境科学教室「私たちの暮らしと東京湾の水質を考える」	川崎市環境総合研究所
⑬	江東区環境情報学習館 えこっくる江東	8月3日	おさかなまるごとウォッチング in えこっくる江東	公益財団法人 日本海事科学振興財団 船の科学館
⑭	ネイチャーセンター視聴覚室・前浜干潟	8月11日	干潟のカニを調べよう	NPO 法人東京港グリーンボランティア

⑮	日本丸メモリアル パーク内シーカヤ ックパーク	8月12日	日本丸シーカヤッ ク親子体験教室	(公財)帆船日本 丸記念財団
※	葛西海浜公園西な ぎさ	8月13日	カニ生息一斉調査 干潟調査	NPO 21世紀水倶 楽部
⑯	浦安市境川河口	8月25日	親子ハゼ釣り調 査、 夏休みボランティ ア	浦安水辺の会
⑰	JNC石油化学(株) 市原製造所周辺道 路及び構内	9月5日	クリーンデー	JNC石油化学 (株) 市原製造所
⑱	谷津干潟	9月24日	えっさほいさゴミ 拾い	谷津干潟自然観 察センター
⑲	横浜赤レンガ倉庫 広場、大さん橋、 横浜赤レンガ倉庫 周辺海上	10月18日 10月20日 10月21日	東京湾大感謝祭 2018	東京湾再生官民 連携フォーラム

※ 報告書番号を振っていない活動(※)は、生物調査と合わせて実施したイベントです。個別のレポートについては、「9. 生物調査の実績」をご参照ください。

イベントレポート①

主催機関	イベント名
高島水際線公園愛護会	水際ゴミ拾い・生き物観察会・ハマエビ杯・ハマハゼ杯 他

【イベント概要】

地域の小学生、家族、市民を対象に、高島水際線公園の清掃、干潟調査、生き物調査（テナガエビ、マハゼ調査等）を実施しました。

【開催時期】

平成 30 年 5 月 5 日 : 水際ゴミ拾い・生き物観察会
平成 30 年 7 月 7 日 : 水際ゴミ拾い・ハマエビ杯
平成 30 年 9 月 1 日 : 水際ゴミ拾い・生き物観察会
平成 30 年 10 月 6 日 : 水際ゴミ拾い・ハマハゼ杯練習会
平成 30 年 11 月 13 日 : 水際ゴミ拾い・ハマハゼ杯

【場所】

横浜市高島水際線公園

【主なイベント内容】

2018.05.05 水際ゴミ拾い・生き物観察会

参加者 39 人で、水際線ゴミ拾い、潮入りの池の生き物調査を行いました。初参加の子供たちも多く、多人数で大量のゴミを回収できました。水際線は行政管理区域の境界にあることもあり、清掃の手が十分届いていません。ゴミの多さも昨年と同様で、大量のペットボトルやカン、レジ袋などがあり、果ては粗大ゴミまでありました。皆でゴミをなるべく出さない工夫や心がけをしながら生活することで、ゴミが減るといいと思っています。

水際ゴミ退治後は潮入りの池の生き物探しを行いました。今年はエビや小魚が多く、初参加の子供もベテランの子供も、楽しく生き物を捕まえられました。カニ護岸にも多くのカニが見られました。GW は暖かかったため、人も生き物も活動的だった様です。